

出展内容「新たな技術で拓く下水道の未来」

下水道業界は、自然災害の頻発やデジタル革新時代の到来により、新たな業務形態への変化が求められています。

日本水工設計は、これからの下水道を考え、さまざまな課題に挑戦し、解決に向けたベストプラクティスをご提案します。下水道展‘22 東京では、2つのテーマについてご紹介いたします。



テーマ1「新たな雨天時浸入水調査技術」

雨天時浸入水に起因する事象としては、マンホール等からの溢水や宅内への逆流、流入量増加による未処理水の流出など、早急な対策が求められています。一方、効果が現れるまでに多額の費用を要することから、十分に対策が進んでいません。弊社では、B-DASH 技術を含め、ニーズに合わせた定量化技術を保有しており、効率的・効果的な調査手法をご紹介致します。ブースでは「水位計と光ファイバー温度分布計測システムに AI を組合せた雨天時浸入水調査技術導入ガイドライン（案）」の1つである「ラインスクリーニング」の模型を展示し、ラインスクリーニングの仕組みや光ファイバーケーブルによる温度測定等を体験できるコーナーを設置しています。

テーマ2「デジタル情報基盤を核とした事業運営」

近年、人口減少や節水機器の普及等から有収水量は減少傾向にあり、財政、執行体制の面で大変厳しい状況です。下水道事業を持続的に運営して行く解決策の一つに、生産性の向上（業務効率化）があげられます。弊社で取り組んでいる手法の「持続可能な事業運営の実現に向けた情報システム」として、自治体特性を活かしたデジタル情報基盤の構築、蓄積されたデータを活用した分析支援、効率的なマネジメントに向けたストックマネジメント支援ツールの活用などについてご提案致します。ブースではマネジメント支援ツールの体験コーナーを設置しています。効率的なマネジメントについてご相談ください。

また今回、出展者プレゼンテーション（8月4日（木）11:40～）において、『DX時代のマネジメント』をテーマにご紹介します。

技術詳細はこちら：<https://www.n-suiko.co.jp/gesuidouten/>